

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月31日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530643

研究課題名（和文） 日本における臨床心理士の教育訓練と職業的発達上の課題について

研究課題名（英文） Issues pertaining to the training and professional development of clinical psychologists in Japan

研究代表者

金沢 吉展 (KANAZAWA YOSHINOBU)

明治学院大学・心理学部・教授

研究者番号：10152779

研究成果の概要（和文）：臨床心理士の成長過程と専門家としての熟達化、大学院における臨床心理実習の内容とスーパービジョン方法、臨床心理士の教育訓練・研修ニーズ、スーパービジョンにおけるスーパーバイザーの体験、ならびに、心理職の専門職としてのアイデンティティに関して、量的・質的・事例・理論的研究という多様な研究方法を用いて研究を行った。今後の日本の臨床心理士の養成・大学院修了後の教育研修について多くの示唆を得た。

研究成果の概要（英文）：Professional development of clinical psychologists, methods of practicum training in graduate school, methodology of clinical supervision, training needs of practicing clinical psychologists, supervisees' experiences in supervision, as well as professional identity of psychologists were investigated via multiple research methods including quantitative, qualitative, case study, and theoretical research methods. Implications for training of Japanese clinical psychologists in and beyond graduate school were discussed.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：セラピスト論、職業的発達、教育系心理学、臨床心理士、スーパービジョン、専門職

1. 研究開始当初の背景

臨床心理士養成のための指定大学院は140校を超えており、質の高い臨床心理士を養成するためには、大学院における教育訓練の方法や効果、さらには、大学院修了後の生涯に

わたる臨床心理士の学習課題や発達の変化、職場の異動や臨床経験を積むことによる変化等を明らかにする必要がある。しかしながら、こうした課題について系統的に検討する研究はこれまで行われていない。そこで、平

成 18～19 年度科学研究費補助金（課題番号 18530548、「臨床心理士の職業的発達ならびに教育訓練の効果に関する研究」）の研究内容をさらに発展させ、臨床心理士の職業的成長・発達と教育訓練について、臨床的コンピタンス(臨床心理士の能力)の発達、臨床家としてのアイデンティティ形成、および個人としての成長と職業人としての成長の交差について明らかにすると共に、成長促進的な教育訓練プログラムについて提言を行うことが必要と考えられた。

2. 研究の目的

本研究は、臨床心理士の訓練と職業的成長を、コンピタンス(臨床心理士の能力)の獲得と向上、心理専門家としてのアイデンティティ形成という視点から包括的に捉えることを目的とする。特に、臨床心理士の職業的動機、発達の契機となる出来事・困難経験とそれらへの対処、個人的生活と職業的生活との相互作用や葛藤、教育訓練過程における困難や成長促進体験について明らかにし、またこれらと臨床実践への取り組み方との関係を検討する。そして、こうした発達の知見を統合し、臨床心理士の大学院における教育訓練、および、継続的教育訓練プログラム改善のための有効な提言を行うことをねらいとする。

3. 研究の方法

(1)発達過程について

臨床心理士の成長過程についてインタビュー調査を行い、結果を質的手法を用いて分析した。

加えて、エキスパート（マスター）セラピストに関する理論的研究ならびに事例研究を通して、初心者あるいは初任者レベルの臨床家が、専門家としての熟達化を進め、優れた実践家として成長・発達を遂げるために必要な要因について考察を行った。

(2)成長促進的援助について

①臨床心理士養成のための第1種指定大学院ならびに専門職大学院の附属臨床心理実習施設を対象として、大学院生（実習生）のスーパービジョン(SV)に関する調査用紙を作成・配布し、回答を分析した。また、大学院修了後の教育訓練・研修に関して、有用な訓練・研修プログラム作成の一助とするため、臨床心理士を対象としたニーズ調査を作

成・配布を行った。

②SVについて質的に検討を行うため、大学院生・若手臨床家を対象に、SVにおける学習体験や否定的体験等についてインタビューを実施し、その結果を質的研究法を用いて分析を行った。

③心理職の専門職としてのアイデンティティについて、大学院教育の果たす役割について理論的な検討を行った。さらに、臨床心理士の教育訓練について、認知行動療法の立場から SV の方法を中心に検討を行った。

(3)以上を総合して、日本における臨床心理士の教育・訓練に関する今後の研究課題ならびに教育実践上の課題について検討を行った。

4. 研究成果

(1)発達過程について

個人としてのライフイベントや他の大学院生たちとの相互支持の経験などが、主観的成長感を支える要因になっていることが示唆された。また、大学院での教育・訓練における困難体験として、臨床家としての自信が未だ十分でないと感じながら、日々の臨床活動に携わらなければならないと感じ、無力感と同時に失敗への恐怖を抱くという、“警戒モード”にあることが挙げられた。一方、大学院時代の臨床訓練における有意義な体験として、対人的距離感の近い中で、自分の言動について直ちに指摘やフィードバックを受けるといった体験が肝要であることが示唆された。

日本における統合的心理療法の第一人者であり、エキスパートカウンセラーとされる村瀬嘉代子氏の事例研究論文の中から代表的な論文 13 編を選び、それらの論文の内容を詳しく分析し、その時代・文化・社会的背景や統合的心理療法の特質を考察した解説及び解題を加えた本を編集した。日本におけるエキスパートカウンセラーの特徴を明らかにすることにより、今後の日本における臨床家の発達や教育訓練に関する示唆を得た。

(2)成長促進的援助について

①臨床心理士養成のための指定大学院・専門職大学院附属臨床心理実習施設における臨床心理実習・スーパービジョン(SV)に関する質問紙調査の結果を分析した。スーパーバイザー(Svor)は当該大学・大学院の専任教員が

務めている場合が最も多く、SVの方法としては個人SVが9割以上の施設において用いられていた。問題点として、Svor不足、経済的問題、教員の負担等が挙げられ、専任教員がSvorを務める場合はSvor不足を挙げることが有意に多いことが示された。また、SVに必要な評価が行われていない場合があることや、実習とは何かについて大学院によって定義が異なることも示唆された。専任教員には大きな負担が求められており、また、Svor不足等の現実的な問題が多く存在していること、さらには、評価の不実施や実習に関する考え方の違いなど、臨床心理実習やSVに関して臨床心理学分野全体での合意形成や、実習教育の標準化、さらにはSvorの増員に向けた検討が必要であることが示唆された。

大学院修了後の教育訓練・研修ニーズ調査の結果からは、修了後の教育・訓練・研修について感じる問題点として、費用等の問題に加えて、心理士個人の資質も指摘された。さらに、SVを受けている臨床家は25%にとどまっていることが明らかとなった。SVを受けない理由として、SVの必要性を感じていない、時間的・経済的余裕がない、希望のSvorがない、SVに代わる学びを得ている等が挙げられており、大学院修了後の継続訓練・研修の環境整備が必要であるのみならず、継続訓練・研修に関して、臨床家を対象とした啓発の必要性が示された。

②SVに関するインタビュー調査からは以下の知見を得ることができた。まず、SVにおける良かった体験に関する質的な分析結果から、スーパーバイザー(Svee)にとっての良かった体験は「自分とクライアントとの関係」、「自己」、「自分とSvorとの関係」の3点から捉えられていることがうかがえた。特に「自分とSvorとの関係」では、Svorから知識やスキルだけではなく、感情的支えと視点の広がりを得ることがSveeにとって良かったと報告されており、SVにおけるSvor-Svee関係の重要性が示唆された。このような良かった体験は、新しい学習に対するオープンな態度を促進し、臨床家としてのコンピタンスの向上に繋がる側面があると考えられる。

一方、SVにおける良くなかった体験に関する分析からは、初心のSveeはSvorの直接

的な否定に対して大きな傷つきを体験するだけではなく、Svorに自分を大切に扱ってもらえないという間接的な否定に対しても敏感であった。その背景には、初心の臨床家特有の自信のなさ・不安の存在が考えられる。もう一方で、初心のSveeはこのようなネガティブな体験を通して、次第にSVとはどういうものか、そこで自分が負うべき役割や責任は何かを学んでいた。このように、「良くなかった体験」は初心のSveeにSV関係の難しさを痛感させるとともに、一人の臨床家として自立・成長するための契機を与えていることが想像された。

SVにおける「言わなかった内容」については「ケースに関すること」と「本音」の2つの中核カテゴリーが生成された。「言わなかった理由」については「上下関係でおこる葛藤」の中核カテゴリーが生成された。これまでSVにはオープンで受容的な関係が重要であると言われてきたが、本研究の結果からSVにおいては、ケースに関することのみならず、Sveeの内面で起こることについても隠される場合があるということが示された。言わない理由として、評価不安や目上への配慮などが挙げられ、これらの背景には、上下関係の中でSveeが抱える様々な葛藤の存在が想像される。上下関係を背景とした葛藤は、日本独特の師弟関係が影響している可能性も考えられる。また、母子並行面接やSvorの行動など、SVを行う環境面に関してSvorからの配慮の必要性が示唆された。

③理論的検討として、心理職の専門職としての意識(アイデンティティ)について、臨床心理学を実践活動、研究活動、専門活動として体系化し、専門職としての意識の確立が専門活動の主要な教育目的となることを理論的に示した。そして、臨床心理学に関連する職業意識の発展過程における現場研修(インターンシップ)体験が専門的職業意識の促進に与える役割を検討するために、医療領域における臨床心理研修プログラムを作成した。

(3)まとめと今後の課題

初学者が不安や失敗への恐怖・傷つきやすさを有していること、SVにおいてはSvor-Svee関係が重要であること、専門家としての発達における個人としてのライフイベントや同胞との支持的関係が果たす成長促進的な役割等、これまで海外の研究におい

て指摘されてきた知見が、本研究においても見いだされたことは、臨床心理士の教育訓練における普遍的な課題を見いだすことができたと考えられ、大変有意義な結果が得られたと言える。一方、専任教員が Svor を務めることによる問題、Svor 不足、臨床心理実習や SV に関する学校（大学院）差、継続研修に関するシステムおよび臨床家側の意識の問題、SV における上下関係・師弟関係を背景とする葛藤の存在等、これまで海外の研究ではあまり取り上げられることのなかった問題点も指摘された。これらの課題は、Svor の養成・教育にも関わる課題であり、日本における臨床心理士養成をより効果的なものにする上で取り組むべき課題である。また、教育研修・SV の効果に関する研究を通じて、より効果的な訓練方法の開発を行うことも求められている。今後は、これらの点について実証的視点から研究を行う必要があると言える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

- ① 下山晴彦 2011 教育すること、治療すること、カウンセリングすること 精神科治療学,26, 295-300（査読無）
- ② 下山晴彦 2011 認知行動療法とスーパービジョン 臨床心理学, 11, 617-621（査読無）
- ③ 下山晴彦 2011 児童思春期の強迫性障害の認知行動療法プログラムの研究 1—プログラムの開発と評価— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, 29-36（査読無）
- ④ 高柳めぐみ・猪ノ口明美・中野美奈・梅垣佑介・川崎舞子・下山晴彦 2011 児童青年期の抑うつ認知行動療法プログラムの研究 1—子どもと若者の抑うつ現状と介入法の展望— 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, 68-74（査読無）
- ⑤ 松丸未来・下山晴彦 2011 学校保健を支える専門職：スクールカウンセラーの役割 小児科臨床増刊号, 50-58（査読無）
- ⑥ 鴛渕るわ・堤亜美・松丸未来・石橋太加志・下山晴彦 2011 中高生を対象とした総

合的心理教育プログラムの実践的研究 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, 116-124（査読無）

- ⑦ 下山晴彦 2010 医療領域における臨床心理研修プログラムの研修マニュアル 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要,33, 47-55（査読無）
- ⑧ 下山晴彦・平林恵美(8名1番目) 2009 特集：医療領域における臨床心理研修プログラムの開発研究 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要,32,115-124（査読無）

〔学会発表〕（計 7 件）

- ① 金沢吉展 臨床心理士養成のための第 1 指定大学院および専門職大学院附属臨床心理実習施設におけるスーパービジョンに関する調査—専任教員が抱える問題点について— 日本応用心理学会第 78 回大会 2011 年 9 月 10 日 信州大学
- ② 上野まどか・山岸敢・白鳥志保・金沢吉展・山口慶子・岩壁茂 心理臨床家の職業的発達に関する調査から：—(9)大学院における変化・成長体験に関する質的分析— 日本心理臨床学会第 30 回大会 2011 年 9 月 3 日 福岡国際会議場
- ③ 金沢吉展 臨床心理士養成のための第 1 指定大学院および専門職大学院附属臨床心理実習施設におけるスーパービジョンに関する調査 日本心理臨床学会第 30 回大会 2011 年 9 月 3 日 福岡国際会議場
- ④ 金沢吉展・岩壁茂・山口慶子・横田悠季・下山晴彦 自主シンポジウム：心理臨床家のストレスと癒しを考える 日本心理臨床学会第 29 回大会 2010 年 9 月 3 日 東北大学
- ⑤ 山口慶子・佐合累・岩壁茂・金沢吉展 心理臨床家の職業的発達に関する調査から：— (9) 大学院の困難体験に関する質的分析— 日本心理臨床学会第 28 回秋季大会 2009 年 9 月 20 日 東京国際フォーラム
- ⑥ 佐合累・山口慶子・岩壁茂・金沢吉展 心理臨床家の職業的発達に関する調査から：— (8) 大学院における学習体験— 日本心理臨床学会第 28 回秋季大会 2009 年 9 月 20 日 東京国際フォーラム
- ⑦ 新保幸洋・金沢吉展・岩壁茂 心理面接の基礎的なスキルに関するトレーニング法

の効果測定研究—プログラム開発の原理と
評価の実際— 日本心理臨床学会第 27 回
大会 2008 年 9 月 5 日 つくば国際会議
場

〔図書〕(計 4 件)

- ①新保幸洋編著、村瀬嘉代子出典著者 金剛
出版 「統合的心理療法の事例研究 村瀬
嘉代子主要著作精読」 2012 年 319 頁
- ②村瀬嘉代子(編)新保幸洋他著 金剛出版
「統合的心理援助への道：真の統合のため
の 6 つの対話」 2010 年 (分担執筆：
173-219 頁)
- ③下山晴彦(著) 東京大学出版会 「臨床
心理学をまなぶ 1：これからの臨床心理
学」 2010 年 300 頁
- ④下山晴彦・能智正博(編) 新曜社 「心
理学の実践的研究法を学ぶ」 2008 年
351 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金沢 吉展(KANAZAWA YOSHINOBU)
明治学院大学・心理学部・教授
研究者番号：10152779

(2) 研究分担者

岩壁 茂 (IWAKABE SHIGERU)
お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究
科・准教授
研究者番号：10326522

下山 晴彦(SHIMOYAMA HARUHIKO)
東京大学・教育学研究科・教授
研究者番号：60167450
(H20→H21：連携研究者)

新保 幸洋(SHINPO YUKIHIRO)
東邦大学・理学部・教授
研究者番号：10226350
(H20→H21：連携研究者)

(3) 連携研究者

該当無し